

横浜市立中学校長・校長代理様
横浜市立義務教育学校長様
社会科担当者様

横浜市立中学校教育研究会
社会科部会長 濱本 貴康

浜中社だより

第3号

日頃より浜中社の活動にご理解・ご協力をいただき、大変感謝しております。平成30年度も会員の皆様のご支援・ご協力のおかげで、無事にすべての活動を終えることができました。学習指導要領の改訂に伴い、各校では平成33年完全実施に向けて教育課程の編成に着手されていることと思います。また平成32年には関東ブロック中学校社会科教育研究大会（横浜大会）の開催も予定しております。引き続き、会員の皆様とともに、生徒にとっての深い学びを実現できるように活動を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○冬季講演会の報告

今回の講演会は、「授業実践をもとに『深い学び』につながる単元構想を考える」をテーマに、横浜国立大学教育学部教授・重松克也先生を講師にお招きし、一部ゼミ形式を取り入れながら実施しました。今回の講演会で題材とした授業実践は、浜中社第1回研究授業（富岡東中・高嶺直己先生）です。

この授業は公民的分野の導入単元として、「現代社会の課題を科学技術は解決するか～監視社会の是非を問う～」をテーマに行ったものです。講演会の冒頭で、授業者の高嶺先生から、どのような考えのものに授業構想をしたのかという話があり、その後、参加者が6つのグループに分かれて、「この授業をどう考えるか」「どんな教材や内容であれば、このテーマに深く切り込めるか」ということについて協議しました。この協議を受けて、重松先生から総括的に講演をいただきました。



<高嶺先生の話の骨子>

- 日々の授業研究が一回一回の授業ばかりにスポットが当たっているので、もっと単元というレベルで授業を考えたい。
- どういう単元であれば、その後の政治経済・国際社会の学習につながっていくのか、ややもすると、この単元は語句だけ取り扱って、政治経済の学習に入ってしまうがちなため、「なるほど、だから公民的分野を学ぶ必要があるんだ！」と生徒が思えるような単元にしたいと考えた。

- 今回の授業は、あくまで公民的分野を学習していく上での見通しをもたせるための単元であるので、答えが中途半端になってしまい、深まらないかもしれない。でも現実的に向き合わなければならない課題を見せて、「なんか嫌だなあ」といったモヤモヤした感覚が生まれたり、「あれっ！」と疑問に感じたりしたことを、「これから学習して自分なりに考えを深めていこう」と思えば良いと考えた。



教材研究は社会科研究の中で一番遅れていて、ないのです。ほとんどの場合、どういう授業を組み立てるかという授業方法の話ばかりになっているのです。教科研究ということをやられる方はいますが、教材研究についてはほとんどないのです。教材研究はたぶん現場の先生しかできません。大学ではできないのです。目の前に具体的な生徒がいないと、教材研究はできないのです。教材研究するというのは先生方が置かれている場のアドバンテージです。教材研究とはいったい何か、これは当たり前の話ですが、授業者が想定したことと生徒との結節点で教材を設定するわけです。だから生徒がいないとできないのです。学問的に正しいからといって、パーッと垂れ流して探求させていく授業というのは教材研究とは言わないのです。視点の対立・拮抗をもちながら教材研究をしていくということです。「このことはこの人にとっては良いかもしれない。でも、この（別の）人の立場に立ったら困るのではないか、そのことをどう考えたらよいのか」ということを考えて調べることが大切です。物事をとらえる視点が対立・拮抗している状態に自分が持っていていくわけです。決めつけかもしれませんが、多くの場合、教科書に書いてあることを分かりやすく教えるために、資料を探してきていることを教材研究ととらえているようですが、それは教材研究ではないのです。教具研究です。

教具と教材を分けるというのは、1970年代の教授学研究の到達点でもあったわけです。この単元のねらいについて、分かりやすい、考えやすいようにする教材や教具があるのではないかと探していくと、先生の意図をうまく見抜いた生徒だけが付き合ってくれて、多くの子はキョトンとするのです。ここは人権、ここは地方自治、ここは国際政治など、現実の社会はそのようには区分されていないです。現実の社会はいろいろな面を使って考えるようにするのが社会科のねらいなのです。

1970年代に、生徒の個のとらえ方で、千葉県松戸市で中学校の先生だった方が本を書いていると、そうだなと思ったことが、「私が今気にかけている子は二つのタイプの子である。」と書いてあったのです。一つはすぐわかるのだけど、その教材とか物事の本質に迫っていかうとしない子、社会科は得意だけど社会に対して関心がない子です。このような子を育てるために私たちは社会科をやっているわけではないのです。もう一つのタイプは、なかなかわからなくて、あーでもないこーでもないとぐずぐずしているのだけれど、物事の本質に迫っていく可能性を持っている、二つのタイプの子が気になる。その両者をどうやってつなぎとめるか、ということで議論させたりする。それを見抜くためには教材を研究していないと、実際にはやりながらでないといけない。授業は完璧な人間が授業するわけではないので、やりながら課題を見つけていくプロセスの中で、生徒の発言を聞けるのです。心構えなのです。自分が至らないということが分かっているから、なんでこの子はこんなことを言ったのだろうと考えるのです。至らなさを隠そうとすると、自分自身が考えていないことが多いのではないかと思うのです。至らなさを改善するためには、テーマ性が大切になるのだと思うのです。

難しいか難しくないかは教材によるのです。あれこれの言葉を並べるではなく、シンプルで、しかしこの社会のことをグッと考えていける教材はあると思うのです。それは先生一人ひとりが生徒の視点の中で設定しないと、生きて働かないのです。どこかにあったこの教材を使ってみようとしても、先生自身がここを拾えないから、上手くいかないのです。授業中に先生が生徒と一緒に考えて、単元や授業が終わった時に先生が教材に対する見方が変わっていなければならないのです。変わっていないということは先生が考えていないということなのです。生徒に何を考えるかばかり考えておいて、自分は教材に対して考えていないのです。自分は授業をする前はこうだったけど、この子話を聞いて、例えば監視社会だったらこういうことの良さがあるんだよな、それを探ってみるのも確かに視点だよな。変わったのならその先生も考える。教材研究が力を発揮するのは、授業中とか授業後のその子の考えをつかまえるときに発揮するのです。そしてその後、カリキュラムを改善していけばよいのです。次はこうしようと、最初から完成体でカリキュラムを回すのは現実的には無理です。これがスカス力だとかつかまえられる。授業中に先生もこの教材について考えてから、この子の発言はその通りだと、自分も学んでいく、それが、先生が頭の中で生徒とやる対話だと言ってよいかもしれない。そうするとその子に対する働きかけが変わってきます。「ここに注目してごらん」「このことを考えてごらん」という言い方をしないで、本当に対等に議論をするのです。「先生はこう思うんだけど、君はこう言ったよね。それはどう？」といった大人同士の会話になるのです。「中学生は未熟だから」ではないのです。

各部会より

研究部

○浜中社第2回研究授業の報告

日時・会場：平成30年11月28日（水）13：30～ 横浜市立中川中学校

授業者：相磯 達夫教諭

研究主題：「よりよい社会を実現する力を育む社会科学習」

～社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして～

単元名：地理的分野 世界の諸地域「北アメリカ州」

～教室の様子から北アメリカ州の特徴を考えてみよう～

※すべての州を貫くテーマとして「学校の様子」を導入に据えて、他地域との比較やつながりも考えることで、多様な文化の在り方を認め合える資質の育成を図ることを目指した授業を実践していただきました。参加者の皆さんからは、授業者の先生の指示の仕方など、ファシリテーターとしての動きに質問が多く出てしていた、建設的な研究協議を行うことができました。

研修部

○横浜市立総合文化祭 中学校社会科作品展・社会科研究発表会について

<社会科作品展> 平成30年12月15日（土）～平成31年1月7日（月）横浜市歴史博物館常設展示室

夏休みの課題や日頃の社会科学習の成果から、87校524名の生徒の作品を出品していただきました。開催期間中に来場された方は2,381名と、中学生だけでなく、その家族や友人、一般の方々など、多くの方に来場いただき盛況のうちに終えることができました。各区の行事担当主任の先生方のご協力に感謝いたします。

<社会科研究発表会> 平成30年12月15日（土） 横浜市歴史博物館 講堂

8校から12団体が参加し、35名の生徒の皆さんにが日頃の学習の成果を発表していただきました。昨年からの継続している発表や身近な問題や社会的な問題に取り組んだ発表など、どの発表も意欲的に調査・体験したものがまとめられており、内容・発表方法ともに多彩で工夫された素晴らしい発表となり、予定時間を大幅に延長してしまうほど盛況な発表会となりました。ご指導に当たられた先生方、本当にありがとうございました。

事務局

○研究会報（52号）について

各区の研究担当主任の方にも原稿を作成していただき、編集作業を無事に終えることができました。大変ありがとうございました。今年度内に各校に発送し、会員の皆様にお届けできるように準備を進めていますので、よろしくお願いいたします。

授業づくり委員会(J委員会)

○第5回 10月31日（水）16：00（1800）～ 共進中学校

題材：『犠牲のシステム 福島・沖縄』（高橋哲哉 集英社新書）

○第6回 2月27日（水）16：00（1800）～ 共進中学校

題材：『地政学入門～外交戦略の政治学』（曾村保信 中公新書）

※2回とも、深い学びを生徒から引き出す授業づくりの視点を考える上で、内容の濃い協議ができました。次年度も皆様の参加をお待ちしております。

次年度にむけて

○研究活動の方向性

●研究テーマ「より良い社会を実現する力を育む社会科学習」

～社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして～（継続）

* 関東ブロック中学校社会科教育研究大会にむけて、今年度に引き続き、同じテーマで研究を進めていく予定です。各区教育研究会社会科部会におきましても、同様のテーマを設定していただき、市全体で研究を推進していきたいと思っておりますので、ご協力のほどお願いいたします。

○第55回 夏季巡検について

浜中社の夏の恒例行事となっている巡検は50回を機に、日帰りの巡検を中心に実施し、5年に1回、宿泊を伴って県外での巡検を実施することとしました。次年度は節目の55回目を迎えることから泊を伴う巡検を実施する予定です。現在、研修部を中心に準備を進めております。見どころが満載の巡検となります。多くの会員のご参加をお待ちしております。

●日 時：8月18（日）～19（月）（予定）

●巡検地：山梨県甲府盆地・都留方面（釈迦堂・石和・勝沼・甲府・都留・富士吉田 等）

○関東ブロック中学校社会科教育研究大会における

●日 時：2020年11月6日（金） 9：30～17：00（予定）

●会 場：横浜市開港記念会館（全体会）、大綱中学校（研究授業）

●実行委員会：「総務」「運営」「研究」の3チームに分かれて準備が本格的に始まります。事務局から文書やHP等を活用して情報を発信していきます。皆様のご協力をお願いいたします。

●研究推進委員会の活動

今年度に引き続き、毎月第2水曜日の17時から開催予定です。次年度は研究の骨子づくりと大会に向けての授業づくりを進めていきます。一緒に研究してみたい方は今からでもご参加いただけます。

掲示板

浜中社 春の予定（5月～7月）

●研究総会 5月8日（水）14：30～17：00 横浜市開港記念会館

●横浜みなと巡検 5月25日（土）8：30～12：30（予定）

横浜開港にまつわる歴史に造詣が深い社会科OBの先生方が講師を担当し、研鑽を深めます。

<今回の見どころ> ・吉田橋を起点に、横浜開港にまつわる史跡をめぐるります。

◎今回は山手方面の新コースも設定しています。一度参加した人も是非、ご参加ください。

※今から参加希望される方は、研修副部長（東永谷中・伊吾田教諭）までお問い合わせください！

●授業づくり委員会（J委員会）

<第1回> 5月29日（水）16：00～ 共進中学校

題材は未定 ※新年度に改めてご案内をいたします。

●浜中社研究授業 6月26日（水）13：25～（予定） ※会場・単元等は未定